



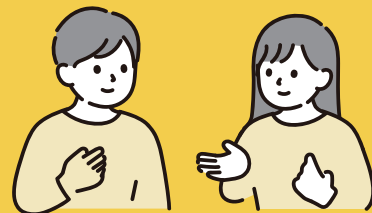
## 5. 報告と コミュニケーションを行う

### ● 効果的な報告とコミュニケーションを行う

「コミュニケーション」を生業とする私たちは、多様な手法と豊富な技術を通して取り組んでいます。

Webサイト、SNS、イベント、動画、印刷メディア等のクリエイティブ、プロモーション、コンサルティングまでのワンストップ対応が可能です。

持続可能性についてもステークホルダーへの最適な伝達方法に貢献できることがマテリアリティの一つです。



### ● SDGs達成度についてコミュニケーションを行う

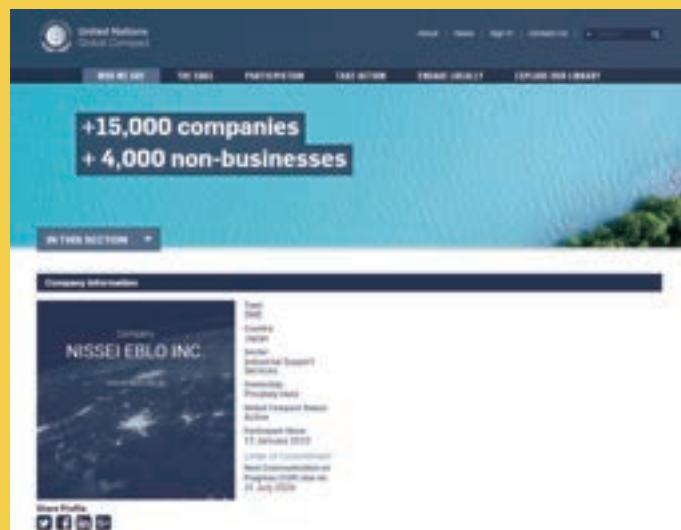
2010年より毎年、国連グローバル・コンパクトへ CoP (Communication on Progress) として学生と協働制作した Eblo Report (10原則の年次報告) を提出、Webサイトを中心に発信・展開してきました。

現在は 2023年より改訂された新 CoP に対応の上、情報公開しています。



## Think Globally, Act Locally

ニッセイエブロ株式会社は、CSR活動を積極的に取り組む上で『国連グローバル・コンパクト』への支持を表明。当社社長による書簡を国連事務総長に提出、受理され、2010年1月6日付で正式に参加しました。  
今後は、国連グローバル・コンパクト4分野（人権・労働・環境・腐敗防止）10原則の周知・浸透に努め、当社におけるサステナビリティの軸としていきます。



ニッセイエブロ株式会社

なんちゃって、  
ではありません。



# No! SDGs ウォッシュ

Be Resilient Eblo Report 2023  
サステナビリティレポート

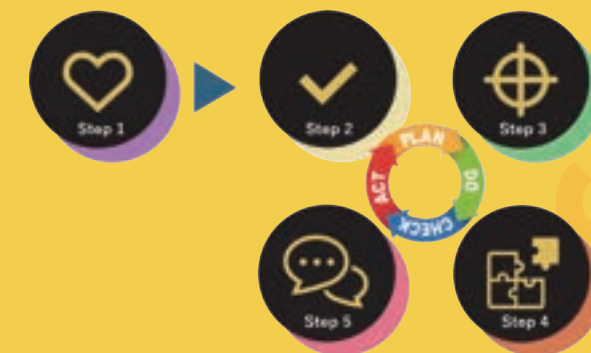


## SDGsウォッシュなんて言わせない!

私たちは学生のキャリア教育となる学外授業の支援を通じてSDGsを推進しています。手引書であるSDG Compassを協働研鑽し、「Z世代によるSDGs診断」の指標を独自に策定、SDGsウォッシュにならないように推進してきました。  
私たちは「サステナブル経営」を2008年より次代を担う学生と対話しながら、行動しています。



### SDG Compassの5step



ニッセイエブロ株式会社のサステナブル活動。SDG Compassに示されるステップ 1～5 に照合した活動を実施しています。詳しくは各QRコードからご覧ください。



## 1. SDGsを理解する

- SDGsは私たちに必要か

SDGsの各目標は「企業等の本業を通じて社会課題を如何に解決できるか」が本質とされています。

私たちは「コミュニケーション課題の解決を支援する」ことを事業目的にしています。SDGsの各社会課題を解決させるには「コミュニケーションの最適化」が求められるものと考えています。



- 利用する理論的根拠

将来の市場開拓の機会になることをはじめ、顧客、求職者、パートナーより「選ばれる会社」へ、そして社員の働きがいになりえる企業価値を向上させることが可能になるものと捉えています。

- エブロの社会的責任とは

ブランドメッセージである「つたえる、つながる。」事業は社会へ貢献し、多くの皆様への責任を果たし、ご期待に応えることにつながるの願いが込められています。



## 2. 優先課題を決定する

- バリューチェーンをマッピングし、影響領域を特定する

2008年にスタートした大学生の学外学修授業、又、2010年に設立した中小企業主体のNPOとの連携により第三者意見をマッピングに取り入れています。

- 指標を選択し、データを収集する

2010年、国連グローバル・コンパクトに署名・参加。4分野10原則を指標に学生とともに、年次報告書(CoP)を企画・制作、提出。その制作過程で適宜、学生による社員インタビューやアンケート等で収集しています。

- 優先課題を特定する

これらの学生との協働活動で主に自社の労働環境を見直し、改善できることは「働きがいも経済成長も」に向けた活動として定着しています。さらに学生には社会人基礎力を養う「質の高い教育」の一環として15年間持続しています。



## 3. 目標を設定する

- 目標範囲を設定し、KPI(主要業績評価指標)を選択する
- ベースラインを設定し、目標タイプを選択する

事業活動をSDGsと連動させるために、学生をはじめ大学やNPO会員等、内外のステークホルダーと定期的に協議しています。

そして、具体的かつ計測可能で期限付きの持続可能な目標設定に向けてマネジメントシステム内に取り入れてPDCAサイクル化を準備しています。



- 意欲度を設定する

学生による提案も取り入れて、社内コミュニケーションを活性化する計画を実施しています。(Fika、SDGs研修等)

- SDGsへのコミットメントを公表する

活動の情報開示を念頭にオウンドメディア化に注力しています。さらに、ステークホルダーが期待する情報を積極的に発信していきます。



## 4. 経営へ統合する

- 持続可能な目標を企業に定着させる

全社方針として「ひとり一人が考えるSDGs」をコミットし、都度、全社会議に取り上げています。部署によっては人事考課の項目に追加され、社全体で取り組める体制を整備中です。

- 全ての部門に持続可能性を組み込む



毎年の実施される大学の学外学修授業で学生と社員の交流機会を重視しています。現在は学生によるプレゼンを受け、採用。これにより社員の気づきが進んでいます。

- パートナーシップに取り組む

オープン・イノベーションを目的に設立したNPOサステナブル・プラットフォームとして年に一度エコプロへ出展、大学や企業、教育機関のステークホルダーを拡大し、協働しています。

